# はぐくみ

安城中部小学校 学校通信　　令和６年　６月号　５月２８日

## たのしむ力

安城中部小学校長　稲留　雄一

廊下の壁に、杉の木学級の子どもたちが一生懸命に作った、色とりどりのアジサイが鮮やかに咲きそろっています。初夏を思わせるような日もあれば、季節が逆戻りをしたと感じる日もあります。気温差も大きく、体調の維持が難しい時期です。子どもたちの体調管理には、私たち大人が日ごろとの違いを表情や食事の量や遊びから見取ってあげる必要があります。家庭と学校が連携をとって、子どもたちを見守っていきましょう。

ミニ明治用水では、冬の間見ることができなかったザリガニが、今年も姿を見せ子どもたちの遊び相手になってくれています。ザリガニを追いながら温まっていく水のぬくもりや生き物の不思議さに直接触れています。低学年の子どもたちがアサガオの種やミニトマトの苗を植え、毎日水やりをしながら生長を見守っています。愛情をもって命を育て、恵みに感謝する経験は、バーチャルが世の中の主流になりつつある今だからこそ、大切にしたい機会だと思っています。時にはミニ明治用水の中に「池ポチャ」してしまう子どももいます。くつや服が濡れてしまって、ご家庭にはお手数をおかけすることがあると思いますが、ご理解とご協力をお願いします。

校庭の草刈りをしていると、男の子がやってきて「あんまり、草を刈りすぎないでね。夏にバッタが来ないと困っちゃうから。」と話しかけてきました。「あんまり」「すぎない」と草刈りの必要性を理解しつつも、来たるべき夏にバッタと遊ぶ楽しさを思い浮かべながら真剣に話してくれる姿に、思わず笑みがこぼれました。

先日の全校朝の会で、「たのしむ力」というお話をしました。動画があふれるように出回り、目的もないままそれを受け取る。人が困っている姿やふざけている姿を面白がるような、薄っぺらな楽しさに慣らされてしまうと、楽しませてもらわないと楽しめない。楽しさを自分で見出せなくなってしまうのではないかと心配しています。それゆえ、日常が楽しくないと感じたり無気力さを生んでしまったりしてしまうのではないでしょうか。

楽しさは自分で見つけ出したり、自分で作り上げたりするものだと思っています。子どもたちには、「日常」の生活の中で様々な体験を通して、「たのしむ力」を身に付けてほしいと願っています。「特別」ではないことが重要です。ミニ明治用水で生き物と触れ合う経験や子ども同士で譲り合う中で感じる喜び。植物を慈しみながら育て、生長させることの喜び。夏のバッタの登場を心待ちにする感性といったものを育てていくことが、日常の生活の充実につながり、自分自身を成長させることにもつながるのではないでしょうか。私は子どものころ給食と寝る瞬間が楽しみでしたが…。

「楽しませてもらう」から「楽しむ」へ。そして「楽しませてあげる」喜びが感じられる子どもたちへと成長させていきたいものです。